

# 防災 おやまだ

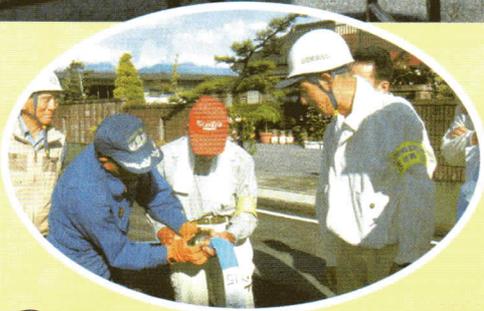
平成23年3月20日発行

第7号

小山田地区防災連絡協議会



山田町矢田義秀自治会長から訓示を受ける皆さん



災害避難者を確認後、防災訓練を行う山田町の皆さん 高齢者若者センター広場にて



## 積み重ねる防災訓練

～積極的にご参加を～

小山田地区防災連絡協議会 会長 萩 伸元

地震は、昔から災害の中で最も恐れられてきました。災害の原因である地震や台風は人の力ではまったくどうすることもできません。しかし、災害に対する被害をできる限り小さくすることはできるのです。日ごろから自治会活動などに自分から進んで参加し、人のつながりや防災訓練でいのちを守ることの大切さをよく認識し、万が一に備えることが大切です。

いま、東海地震や東南海地震の発生が確実視されています。また活断層もあり、過去100～150年の間隔で巨大地震が起きていることも事実です。この地域の地勢は、活断層による地震被害を受けた神戸市とよく似ています。直下型地震が起きれば大きな被害が予想されます。阪神・淡路大震災は、消防など公的機関による初期対応や、素早い被災者救済の限界を象徴した災害であったとも言われます。

私たちは、自助・共助の視点で官と民が一体となり、積極的かつ計画的な、地道に続ける防災訓練の積み重ねが、やがて後日役立つことを教訓として学びました。

# 私たちのまち

## 鹿間町

平成22年9月19日

役員・組長・各班代表・自主防災隊員による情報伝達・避難誘導訓練の後、災害用簡易携帯浄水器のお披露目を兼ねた試運転及び試飲、ラジオ付きマルチ電灯の使用説明、アルファ米などによる炊き出しと、3ブースに分けて訓練を実施した。



## 西山町

平成22年9月19日

町内が5班に分かれ消火栓開閉、ホース接続訓練を実施。また水消火器を使った初期消火訓練を行った。組単位で同時訓練を行うことにより、今年も多く多くの住民が参加し防災意識の向上につながる良い機会となった。



# の防災訓練



## 内山町

平成22年9月26日

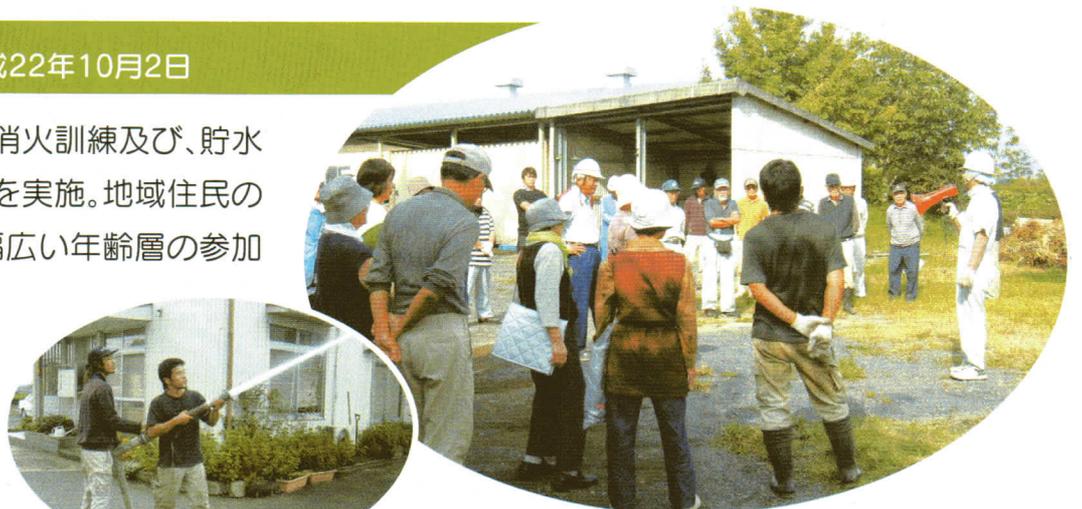
消火機材の点検及び使用訓練、水消火器による初期消火訓練、担架を用いた救護訓練を実施。アルファ米の炊き出し訓練や防災啓発ビデオ上映、AEDの取扱いと応急処置の救命講習も行い、地域住民に日頃からの防災・防火を呼びかけた。



## 美里町

平成22年10月2日

消火器を使った初期消火訓練及び、貯水槽から取水し放水訓練を実施。地域住民の協力体制は年々整い、幅広い年齢層の参加者が身近な訓練を行うことにより地域防災の意識向上を図っている。

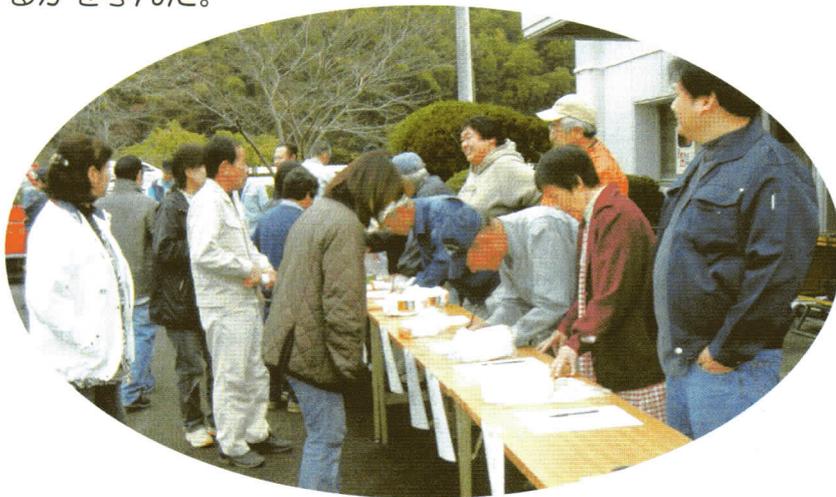


# 私たちのまち

## 小山町

平成22年11月14日

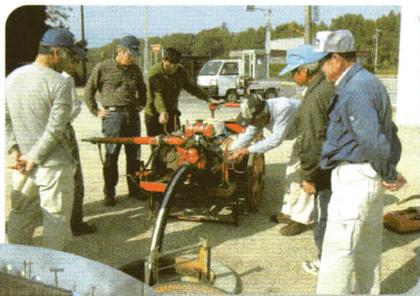
模擬消火栓及び水消火器を用いた初期消火訓練やエンジンポンプによる放水訓練、AEDの取り扱いなどの救護訓練を実施。その後、『災害からいのちを守るために』をテーマにした出前講座とアルファ米の炊き出し訓練及び試食を行い、災害時の自助・共助がいかに重要であるかを学んだ。



## 堂ヶ山町

平成22年11月21日

てんぷら油火災の消火訓練、水消火器を使った初期消火訓練及び、消火栓・可搬式ポンプによる放水訓練を実施。アルファ米やカンパンの試食も行い、住宅火災の防災ビデオを上映し防災・防火の啓発、災害時の地域での共助の重要性を呼びかけた。



# の防災訓練



## 和無田町 平成22年11月28日

防災啓発車『まなぶくん』による震度体験では震度6強の揺れを体感。また、てんぷら油火災の初期消火訓練、消火栓ホースの接続及び放水訓練を実施。次世代を担う子どもたちをはじめ、幅広い年齢層が参加し、身近な防災訓練となった。



## 六名町 平成23年1月9日

情報伝達、避難、消火器による初期消火訓練を実施。消火器の耐用年数は8年でそれを越えると中身の詰め替えができなくなるため家庭用の消火器についても確認を呼びかけた。また、防災啓発車『まなぶくん』での震度体験、県防災技術専門員を講師に迎え災害からいのちを守るための講話を行った。





# 小山田消防分団の活動

『自分達の町は自分たちで守る』をコンセプトに小山田消防分団は、災害時には消火や救助活動などを行い、平常時には災害予防・啓発活動や、消火・防災訓練指導などを担い、地域の安全確保に努めています。

小山田消防分団は分団長、伊藤忠夫以下22名の団員で活動してきましたが、四日市市と楠町の合併により、平成22年4月1日に消防団の再編が行われました。それに伴って、①災害活動 ②予防広報活動 ③訓練指導活動 ④大規模災害活動を行う機能別団員が採用され、この活動も始まっています。

## 1. 消防分団の活動

### (1) 火災発生時の消火活動

一昨年冬季の小山田地区は、家屋火災が連続発生し犠牲者3名が出る異常事態でした。

続いて平成22年4月には、2名の犠牲者が出る痛ましい火災が記憶に新しいところです。

これらの火災には、小山田消防分団はいち早く消防車で出動し、消防署と協力して消火活動にあたりましたが、残念なことにもいずれも全焼となってしまいました。

また、昨秋に続いて8月には、放火と思われる工場火災が発生し、連夜警戒パトロールも行っています。幸いにもその後は沈静化しましたが、本当に困った出来事です。



近年の火災出動回数



建物火災の消火活動

### (2) 防災訓練などの住民指導

平成19年度から、地区全体の防災訓練は廃止され、町別自主防災訓練に移行しています。

平成22年度も小山田地区全9町でそれぞれ防災訓練が実施され、小山田消防分団は次の8町において指導を行いました。訓練では参加者全員が、見学ではなく体験していただく様に努力しています。万一災害が発生した時には、この体験が初期の対応に役立って来ます。

訓練の回数を重ねる毎に子供からお年寄りまで幅広い年代の参加者が増え、また繰り返し訓練を行うことで防災のレベル向上が心強く感じられる様になって来ました。

- 9月 19日 西山町
- 9月 19日 鹿間町
- 9月 26日 内山町
- 10月 10日 山田町



- 11月 14日 小山町
- 11月 21日 堂ヶ山町
- 11月 28日 和無田町
- 1月 9日 六名町





三重県消防協会北勢支会長表彰 表彰徽章	辻 弘幸 さん
三重県消防協会北勢支会長表彰 表彰徽章	田中 重樹 さん
三重県消防協会北勢支会長表彰 表彰徽章	市川真之介 さん
四日市市長表彰 消防団功労者表彰	坂井 昇 さん

### (3)火災予防・啓発活動

テレビ・新聞等で、火災の逃げ遅れによる犠牲者の報道がされます。春・秋の火災予防週間には、法律で義務化された「住宅用火災警報器」の取り付けを重ねてお願いして参りましたが、残念ながらまだまだ設置の割合は低い様に見受けられます。

「住宅用火災警報器」は、家庭内の火災をいち早くキャッチし、逃げ遅れの犠牲者を減らすための切り札ですので、まだ設置していない家庭では早急に設置をお願いします。

これが『自分達の町は自分たちで守る』主旨です。

#### 住宅用火災警報器



ピイピイ! 火事です!  
ピイピイ! 火事です!

## 2. 消防出初式

平成22年の消防出初式が、1月9日(日)に挙行されました。出初式では、消防車の分列行進、表彰、アトラクション(はしご乗り競技・幼稚園児の踊り)、防災ヘリの救助、一斉放水等が行われました。小山田分団員も頑張っていますので来年は是非見に来て下さい。



出初式当日の小山田分団員



小山田分団員による一斉放水

## 3. 消防団員の募集

2年連続「防災おやまだ」で、女性消防分団員の募集案内を行って参りましたが、残念ながら1人の応募もありませんでした。他の地区では既に数名の女性が入団し、活躍されていますので、大変羨ましく思っております。

小山田地区在住、または勤務している18歳以上で健康な方であればどなたでも入団できますので、ぜひ応募してください。



元気のある方の入団を待っています!!

男性・女性  
ともに

- ・消防団員
- ・機能別団員

自分達の町を、自分達の手で  
一緒に守りましょう!



# 防災講演会



**演題** 『避難所運営を支えたものは?』～人々を救ったのは、人の心～

**講師** 神戸市教育委員会震災学習交流センター **近藤豊宣氏**

1月15日(土)、小山田地区防災連絡協議会委員及び小山田地区消防分団員を対象に防災講演会が行われました。阪神・淡路大震災当時、避難所となった神戸市鷹取中学校で校長を勤められていた近藤豊宣さんが、大震災を乗り越えた経験をもとに当時の避難所の実態を生々しく語られました。

## わが家の地震対策 地震への備えは万全ですか?

### 家の中の地震対策

阪神・淡路大震災では、家具類の転倒による死傷の他、家具類の下敷きになり屋外に避難できずに延焼火災の犠牲となったケースもありました。家の中の地震対策は大丈夫ですか?

出典/三重県防災機器管理部 地震対策室



#### 出口の確保も忘れずに!

玄関に固定していない柵があったり、水槽や花瓶を置いたりしていませんか?地震の際、それらが転倒・散乱すると外に逃げられない、靴もはけない、という状態になってしまいます。出口の確保に十分注意しましょう。